

磐城日報

本市白銀町十一番地
電話(呼)一〇三八番
編集発行人 後藤幸夫
印刷 丸山徳平
毎週水曜日休刊 購読料
一月三十円 一月十円

赤井自由労組

仕事のでこぼこを訴える

赤井自由労働者組合正副組
合長福尾、荻野の両氏は、
十六日午前十時平職安所長
と会見

労働区域の擴張、現在の尙現在モッコ及び地下足袋
労働者間には生活的に餘ふ足のため満足に稼働出来
裕があり單なるアルバイトない始末だと訴え向所長は
トとして働き又一家族よこれに對し當所ではそれは
り二名の稼働者を出して取り扱はなないがしかし土
居るのがありこのため困木監督署とも連絡善處する
窮者は稍もすれば稼働ふと述べ地下足袋は即時配給
可能となる實狀、だ民生すると回答を與えた

整理・閉サ人員が

合計三千百余名

平職所管内一年間の數字

平職安所管下に於ける二十材及び木製品工業、建築、
四年一月一日より本年度一食料品工業等の順序で總計
月末日現在迄の産業別企業は閉鎖二十三、整理五八、
体の閉鎖及整理状況は次の人員男二千六百三十三、女
通りである炭礦關係閉鎖十五百四十三名計三千百七十
一、整理二五、人員男二千六百の多きに達している

部落館未解決

決定は次回に

内郷町御厩部落館設立準備
委員会は去る十二日午後一
時より全村小學校で青波部
落館主任外二十四名が出席
副主任三名會計二名を選出
更に教養(根本氏)産業(野
木氏)厚生(志賀氏)の三部
門を置く事にし引續き部落
館設立の問題に入り現さい
學校内に残存せる元集會場
を改造使用すべしという案
に對し全小學校長田野入氏
は學校では近く改造し校舎
として使用すると反對意見
を述べて結局意見對峙の
まゝ決定を次會に延期する
ことになり散會した

女性に男性

をどう見る

湯本青年の討論會
湯本町青年會ではきたる二
十五日の全町役場會議室で
十五日の全町役場會議室で
山崎會長司會のもとに「男
性は女性をどう見るか」と
「女性は男性をどう見るか」の議
論を中として討論會を催
すことになつた

電力停止

日曜公休が實現?

電力事情の好轉によりきゆ
う電日並に電製品の使用制
限が解除され料金さえ支拂
えば使い放題という事にな
つたが平地方の各工場社
ではこんだの週きゆう廢止
による對策として今迄の水
曜きゆう日を日曜きゆう日

海と陸で『モジ』

小名濱港に無線電話局

小名濱古港の高台に今回
に振り替える意圖が濃厚と
なつており或は商工會議所
あたりの音頭取りで全面的
に日曜公休きゆうという事
なるのではないかと見られ
ている

農協組々會長會

は早急に回し届け出でる

今十六日午前十時から石城
地方事務所會議室で郡下
各町村農業協同組合長が集
まり酸性土壌に對する改良
策並びに資金打合せ會を催し
た

竹細工講習

廣野小學校で

農村工業振興のため濱通り
に自生する籐竹、篠竹を活
用して竹細工を作り農村の
一助にしようとする縣主催の
講習にしようとする縣主催の
講習にしようとする縣主催の

御厩連青統合協議

御厩、御台、小島は

(既報) 内郷町下方面青年
會(御厩、御台、小島)は
本會より離脱し三部落青年
會が統合して新しい在り方
の青年會として獨立する事
になり十六日御厩に於て各
部落青年幹部が集まり結成
準備委員會を開いた

落盤で死亡

赤井村日曹炭礦採炭夫佐藤

金助さん(三三)は十五日午後
一時頃落盤の下敷となつて
一死

社告

從業員慰安のため十八、十

九日付本紙休刊致し
磐城日報社

福引景品付

初大賣出中

紳士靴
婦人靴
各種
優秀品精選
靴の菊一
平市三町目 電446

舊正月大賣出し
福引、景品、付にて
破格の大勉強
純綿物豊富
平市四丁目
山吉商店

二日初大賣出し
御買物初めでは是非當店で
平素の御立御禮として……
……独自の景品を添へ
全商品特價販賣
—「特殊品」—
綿手拭……………32円85
……………42円65
綿……………723円74
綿ネル(1.5Y)……………143円40
白銀町 川又 電五三二

盲人教育の重要性

平市議 高木 喬(投)

去る二月十三日の磐城日報みん不休の涙ぐましい活躍紙上に縣立平育あ學校では、地方篤志家素封家來る二十五日校内四十五名から相當の寄附金あつて順の生徒を擧げて學藝會を開演なる成長發展の途を辿つ催のため自由な目で準備と來たのであつたが、忙殺されてゐると報導し更に平市長鈴木辰三郎氏がこの不幸な生徒に對し愛のプレゼントとして補聴器を贈呈し世に生をうけて以來昔のなんたるを知らぬ不幸な生徒に心から感激されてゐると掲載され忘れられた一存在を改めて認識されるに至つた一体同校は明治三十九年石城郡教育會が主となり、無明の人々に教育の職を授けるために設立されたもので創立の當初こそ故中村立躬氏が基本金募集のため幻燈會等を組織し、わらじ履きで山間へき地を奔走するなど文字通りの不文化の世といへども混沌

たる世相の反映から盲人の数は殖えるも決して減少せず、否益々増加の一途を示しつつある折柄愈々盲人教育の重要性を痛感されて教育の完成の急を叫ばれて來たのである。かつては同校の設備、規模、生徒數に於て縣下はむろん東北六縣に冠たるものとして認められて來たので同校の維持生長させるのが平市は勿論本縣としての義務であり責任であらねばならない

生活困難者に對しては新憲法により社會政策的見地より最低限度の生活を補償する事は當然であるこの意味に於て滿給は避けねばならぬが、濫給は惰民養成におちいるおそれがあるから最もつゝまねばならぬ。扶助料の支給は申請に對し地元民生委員の證明に基き民生

去る二月十三日の磐城日報みん不休の涙ぐましい活躍紙上に縣立平育あ學校では、地方篤志家素封家來る二十五日校内四十五名から相當の寄附金あつて順の生徒を擧げて學藝會を開演なる成長發展の途を辿つ催のため自由な目で準備と來たのであつたが、忙殺されてゐると報導し更に平市長鈴木辰三郎氏がこの不幸な生徒に對し愛のプレゼントとして補聴器を贈呈し世に生をうけて以來昔のなんたるを知らぬ不幸な生徒に心から感激されてゐると掲載され忘れられた一存在を改めて認識されるに至つた一体同校は明治三十九年石城郡教育會が主となり、無明の人々に教育の職を授けるために設立されたもので創立の當初こそ故中村立躬氏が基本金募集のため幻燈會等を組織し、わらじ履きで山間へき地を奔走するなど文字通りの不文化の世といへども混沌

★ 十一字詰三十行以内で建設的な意見の投書を歓迎いたします(係)

★ 民生委員は輕率するな

平市二月生活扶助料支給額は二百九十八世帯六十二萬余圓社會情勢の深刻化と共に益々増加の傾向にある事はいう迄もない

委員会に於て當否を決定するのであるから濫給の事實ありとせばそれは民生委員の責任に期すべきと思ふ。民生委員は單に人氣とりに輕々處理する事なく申請者に對しては慎重調査の上支給の當否を決定すべき事を要請す

銀町 第十一回生

金物一切 ベルト セメント

モーター修理

釜屋 電話 9,99,999番

平市五丁目

綿とふとん

大特賣上質ふとん綿責任付

◎ 一貫匁=780圓

賣出期間中(額引券並に一貫匁以上) 御買上の方に粗品進呈

鈴木製綿店

平市新川町 電話 422話

工場 平市古銀冶町

初賣り舊二、三、四日

工場設置一週年記念

無事遊興でその筋を御用某森市役所水道課員松田と稱して同市内數ヶ所から一萬五千圓を借りる

名義で詐取し更に同市長より一萬五千圓を同某方に御絶された借に至

◆ 舊正月の初お買物は是非 ◆

五丁目・大工町連合舊正月 福引景品付大賣出し

舊元日ヨリ三日迄

一等 洋唐瀨 洋金戸一

二等 タ金大酒

自火大鏡

轉鉢火鉢

車以下から

六等迄 六等迄

造りな

優 秀 賞 品 山 積

五 町 目 商 店 會